

○アレルギーとは？

原因となる食物や花粉などに、体の免疫が過剰に反応しておこる生体に不利な反応。

○アナフィラキシーとは？

食物・薬物・ハチ毒が原因で起こる、皮膚・呼吸器、消化器など多臓器に全身的に症状が現れる即時型アレルギー反応の総称。

○アナフィラキシーショックとは？

アレルギー反応によって起こる、血圧低下や意識喪失など生命を脅かす危険な状態。

給食におけるアレルギー対応について、校内及び給食センターでは次のように対応する。

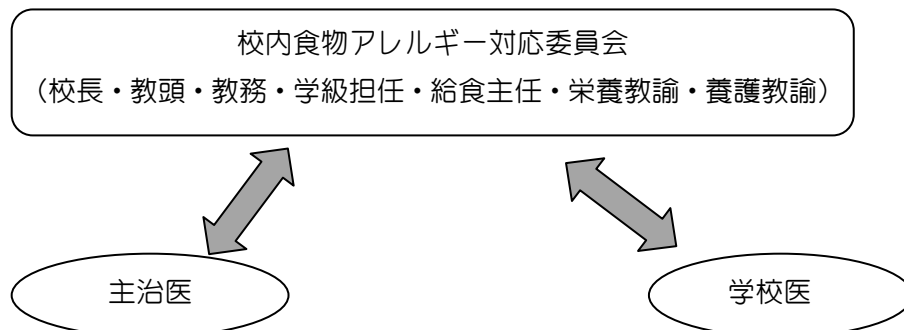
- ・学校から、「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」「家庭における除去の程度一覧表」「食物アレルギーに関する調査表」「食物アレルギー継続管理表」を保護者へ配付する。変更がある場合はその都度保護者に記載してもらい、学校へ提出してもらう。学校生活管理指導表及び関連する資料はファイルし、教務室内の棚に保管する。
- ・上記の書類に基づき、原因食品が入っていない給食を食べる。原因食品が含まれているメニューは除去食や代替食（以下アレルギー対応食とする）が付く。アレルギー対応食は、専用容器に配食され、食器かごに入れられて配送される。
- ・毎月、献立表、除去食・代替食のお知らせ、アレルギー物質一覧表、加工食品配合割合表を栄養教諭が作成し、担任・保護者が確認する。保護者は確認事項を専用の献立表に記入する。専用の献立表は学級担任が保管し、献立表を拡大して教室及び交流学級に貼る。献立表は 1 部教室の担任机内に保管し、給食前に確認する。
- ・緊急時の対応表は、教室・教務室・保健室に貼る。
- ・週末の放課後に、担任が次週の献立にアレルギー対応食があるか確認する。

学校職員・クラス児童・縦割り班児童共通理解事項

- ①給食の内容が個別のものであることの共通理解
- ②給食のおかわりに配慮（担任や給食監督者の理解・自習計画に記入）
- ③遠足や学年行事など食事内容やおやつとの交換に配慮（おやつとの交換をしない）
- ④共通理解を図り、誤食を防ぐため、職員室・所属クラス・配膳室に個人名入りの献立表を掲示する。
- ⑤調理実習で使用する食材に配慮する。

<学校での動き>

本人の動き	学級担任	養護教諭・管理職
登校時 ----- 登校時 -----		
教室で献立を確認する。 (職員と一緒に確認する)	本人と献立を確認する。 アレルギー対応食のある日は朝のうちに管理職に伝える。	献立を確認する。 アレルギー対応食のある日は、職員室前面黒板に『除去食あり』の掲示をする。
給食準備 ----- 給食準備 -----		
献立を確認する。(職員と一緒に確認する。) アレルギー対応食がある献立の時、配膳されていることを確認する。 アレルギー対応食は担任から皿に盛られる。(担任が見守っているところで本人が盛ってもよい。)	本人と献立表を確認し、アレルギー対応食の有無を確認する。 食器かごにアレルギー対応食が配送されているか確認し、アレルギー対応食は配膳前に本人の机の上に置く。 (同クラスの児童にも、食器係を中心に当児童の机の上に置くように頼んでおく。) アレルギー対応食が配膳されていることを確認する。 アレルギー対応食は担任が皿に盛る。 (担任が見守っているところで本人が盛ってもよい。)	献立を確認する。 アレルギー対応食がある献立か確認する。
いただきます ----- いただきます -----		
職員が献立と配膳されているものを確認してから食べる。 アレルギー対応のされていないメニューのおかわりはしない。	食べる前に献立と配膳されているものの確認をする。	



<u>本人の動き</u>	<u>学級担任</u>	<u>養護教諭・管理職</u>
登校時 ----- 登校時 -----		
本人がランドセル手前ポケットに エピペンを入れる。 献立を確認する。(職員と一緒に確 認する)	エピペンがランドセル手前ポケット に入っていることを確認する。 本人と献立を確認する。	エピペンがランドセル手前 ポケットに入っていること を確認する。 献立を確認する。
給食準備 ----- 給食準備 -----		
献立を確認する。(職員と一緒に確 認する。) アレルギー対応食がある献立の時、 配膳されていることを確認する。 アレルギー対応のされていないメ ニューのおかわりはしない。	本人と献立を確認する。 アレルギー対応食が配膳されている ことを確認する。	献立を確認する。 アレルギー対応食がある献 立か確認する。
いただきます ----- いただきます -----		
職員が献立と配膳されているもの を確認してから食べる。	食べる前に献立と配膳されているも のの確認をする。	
下校時 ----- 下校時 -----		
エピペンがランドセルに入ってい ることを確認し、持って帰る。	エピペンを持ち帰ったことを確認す る。	エピペンを持ち帰ったこと を確認する。

食物アレルギー 救急時の対応

異変に気付く
(発見者)

異常を示す症状

皮膚・粘膜症状：じんま疹、かゆみ、まぶたや唇の腫れ、
目の充血

呼吸器症状：咳、呼吸困難、ゼイゼイ・ヒューヒュー

消化器症状：吐き気、嘔吐、腹痛

アナフィラキシーショック：意識障害、血圧低下、頻脈

応援を呼ぶ
(近くの児童に他の教職
員を呼ぶように伝える)

周囲の安全確認

声をかけて

反応があるか？

あり

なし

救急処置

①状態の把握 (養護教諭)

- ・意識状態、呼吸、脈拍、体温皮膚・粘膜
症状の把握
- ・症状・経過の把握
- ・管理指導表の確認 (担任)

②救急処置

- ・掻痒部位の冷却、観察事項を詳細に記録
- ・管理指導表の指示に基づいて行う。

緊急時処方薬を内服させる

保管場所：本人ランドセル手前ポケット

管理職

緊急時の対応実施

- ・対応者への指示
- ・救急車要請 119 番
- ・保護者への連絡指示
(連絡は学級担任)
- ・主治医への相談指示
(連絡は養護教諭)

連絡

担任

保護者へ連絡し、来校してもら
う

いつ・どこで・現在の症状・

処置の状況・今後の対応など

状態が悪化

119 番通報 (管理職)

- 一次救命措置
気道確保
- 自発呼吸ない場合
胸骨圧迫
人工呼吸
AED 装着 など

応援

かかりつけ医療機関に連絡

周囲の教職員

- ・救急処置に参加
- ・症状の記録
- ・周囲の児童管理
- ・救急隊の誘導

救急隊へのバトンタッチ
かかりつけ医療機関名と
主治医名を伝える

救急車要請の目安

- ・皮膚・粘膜症状が拡大傾向
- ・咳、ゼイゼイした呼吸、声が出にくい、呼吸困難
- ・意識障害、頻回の嘔吐・腹痛などの症状
- ・主治医・学校医・保護者からの要請があった場合 など

食物アレルギー 救急時の対応

エピペン・内服薬処方の場合

異変に気付く
(発見者)

異常を示す症状

皮膚・粘膜症状：じんま疹、かゆみ、まぶたや唇の腫れ、
目の充血

呼吸器症状：咳、呼吸困難、ゼイゼイ・ヒューヒュー

消化器症状：吐き気、嘔吐、腹痛

アナフィラキシーショック：意識障害、血圧低下、頻脈

応援を呼ぶ
(近くの児童に他の教職員を呼ぶように伝える)

周囲の安全確認

声をかけて

反応があるか？

あり

なし

救急処置

①状態の把握 (養護教諭)

- ・意識状態、呼吸、脈拍、体温皮膚・粘膜症状の把握
- ・症状・経過の把握
- ・管理指導表の確認 (担任)

②救急処置

- ・掻痒部位の冷却、観察事項を詳細に記録
- ・管理指導表の指示に基づいて行う。

緊急時処方薬を内服させる

保管場所：本人ランドセル手前ポケット

アドレナリン自己注射薬(エピペン)

保管場所：本人ランドセル手前ポケット

<処置者>

- ①本人 【本人が処置可能な場合】
- ②担任・養護教諭
- ③管理職

※担任は注射後、保護者へ連絡し、来校してもらう

管理職

緊急時の対応実施

- ・対応者への指示
- ・救急車要請 119 番
- ・保護者への連絡指示 (連絡は学級担任)
- ・主治医への相談指示 (連絡は養護教諭)

連絡

担任

保護者へ連絡し、来校してもらう

いつ・どこで・現在の症状・
処置の状況・今後の対応など

周囲の教職員

- ・救急処置に参加
- ・症状の記録
- ・周囲の児童管理
- ・救急隊の誘導

応援

119 番通報 (管理職)

●一次救命措置

気道確保

●自発呼吸ない場合

胸骨圧迫

人工呼吸

AED 装着 など

かかりつけ医療機関に連絡

救急車要請の目安

- ・皮膚・粘膜症状が拡大傾向
- ・咳、ゼイゼイした呼吸、声が出にくい、呼吸困難
- ・意識障害、頻回の嘔吐・腹痛などの症状
- ・主治医・学校医・保護者からの要請があった場合 など

救急隊へのバトンタッチ
かかりつけ医療機関名と
主治医名を伝える